

# 所沢プロジェクトについて

2016年12月22日

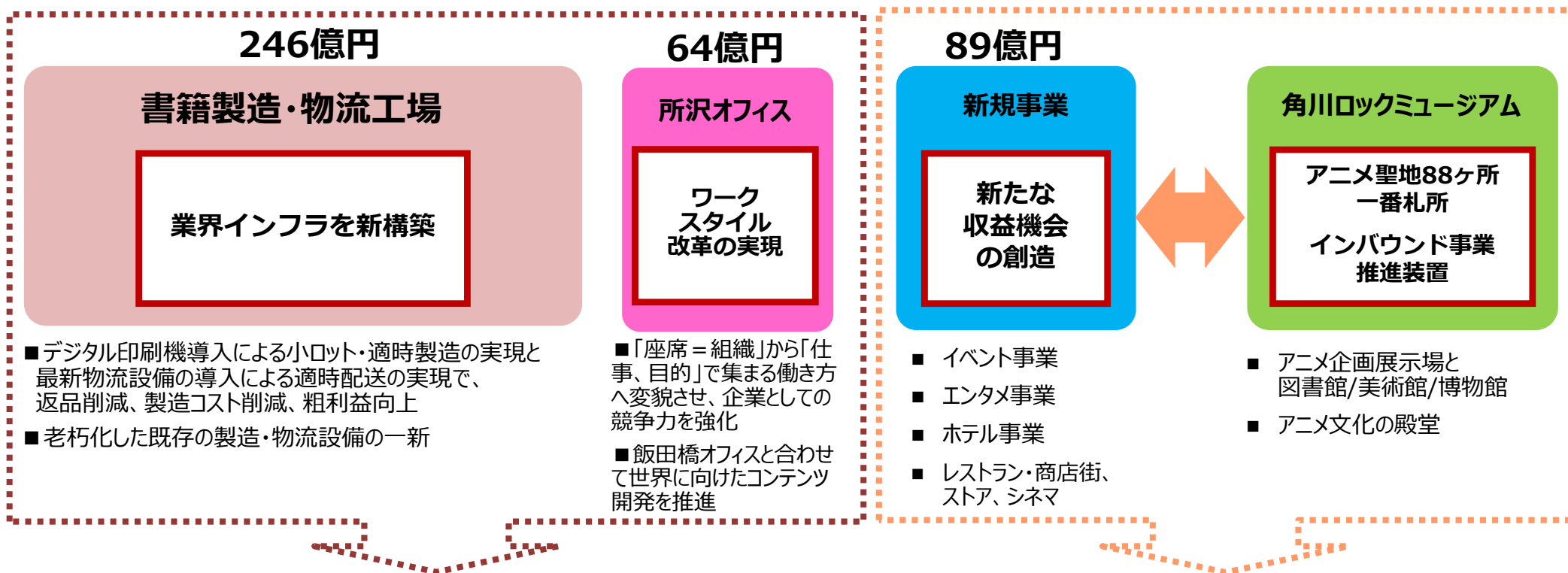
カドカワ株式会社

# 1.本プロジェクトの概要

本プロジェクトは、①最新鋭のデジタル設備を備えた書籍製造・物流工場の建設、②ワークスタイル改革の実現と世界に向けたコンテンツ開発拠点としての新オフィスの建設、③角川文化振興財団が新たに推進する文化事業と連携したインバウンド事業の拠点の建設、の三つの投資から構成される

**KADOKAWAの投資額：399億円**

**財団の拠出**



**310億円**

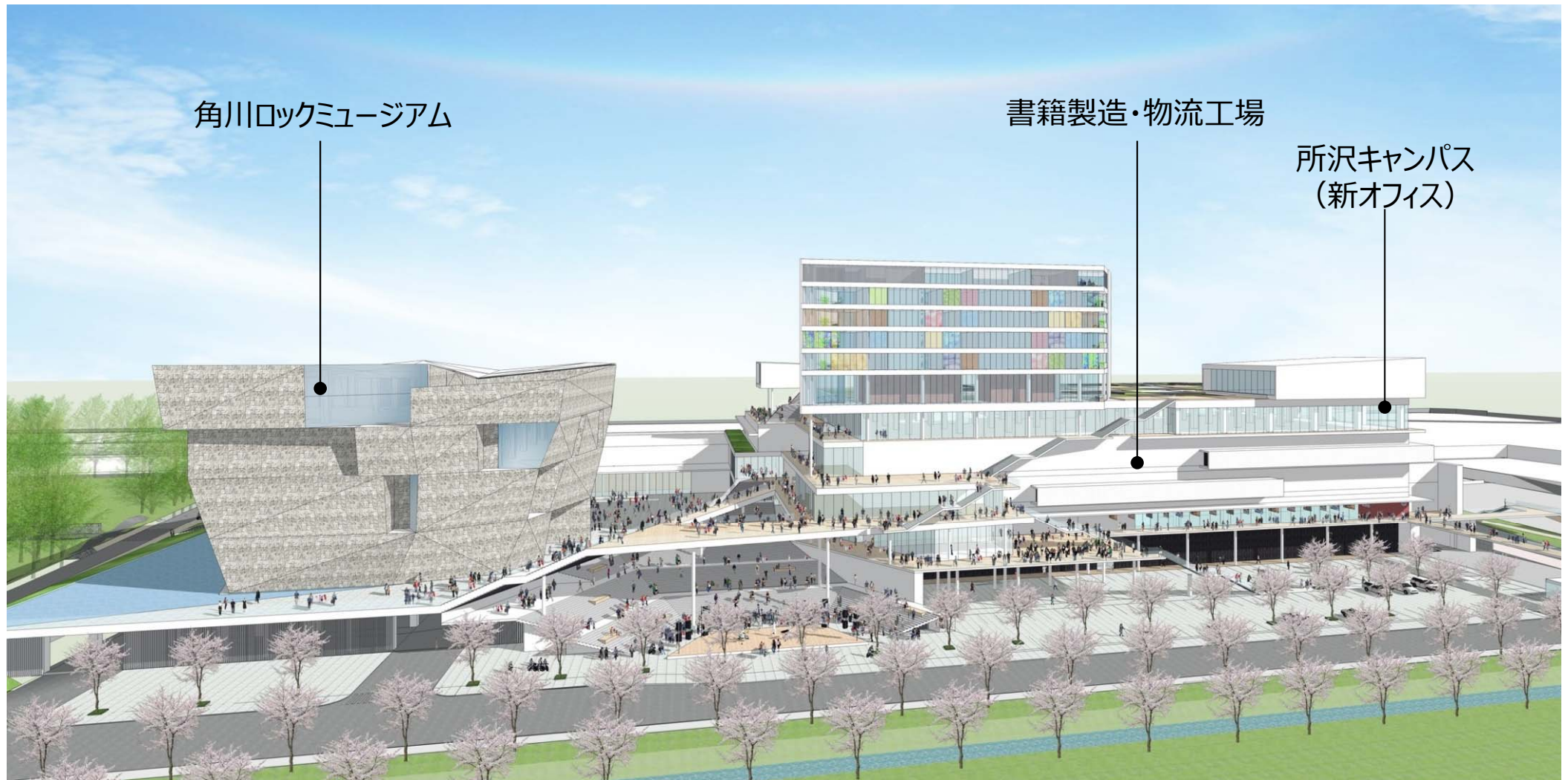
**基幹事業の抜本的改革と収益性アップ**

**日本最大級のポップカルチャーの発信拠点を実現**

**【インバウンド事業の起ち上げ】**

雑誌/広告事業の業態転換、海外事業拡大、イベント/観光事業・・・

## 2. ところざわサクラタウン（仮称）のイメージ



所在地：埼玉県所沢市東所沢和田三丁目31番地の3及び11  
敷地面積：37,382 m<sup>2</sup>、建築面積：約25,000m<sup>2</sup>、延床面積：約84,000m<sup>2</sup>

単位：億円

## ① 初期投資額と事業収支計画

	書籍製造 ・物流工場	所沢キャンパス	新規事業	合計
<b>初期投資額</b>	<b>246</b>	<b>64</b>	<b>89</b>	<b>399</b>
<b>EBITDA (10年間累計)</b>	※1 <b>246</b>	※2 <b>97</b>	<b>61</b>	<b>404</b>

開業後の投資回収期間

**9.9年**

※1 書籍製造・物流工場稼動によるEBITDAに与える影響額

※2 所沢キャンパスで見込まれるコストと現状の賃貸オフィスコストから試算したEBITDAの差額

## ② 投資資金

所沢プロジェクトの投資資金は自己資金で賄い、新たな借入は行いません。

# 4. 所沢プロジェクトの背景と意義

背景	書籍事業	<ul style="list-style-type: none"><li>■世界における製販一体型のブックオンデマンドの潮流と、北米における書籍市場の復活基調</li><li>■当社では、基幹事業の書籍事業においてヒットタイトルを生み出すサイクルが定着</li><li>■既存の製造・物流工場の老朽化により新たな設備の構築が急務</li></ul>
	働き方	<ul style="list-style-type: none"><li>■少子高齢化の進展、ワークライフバランスやダイバーシティの社会的要請</li><li>■震災以降のBCP（事業継続計画）への要請の高まり</li><li>■世界に向けたコンテンツ開発にふさわしいクリエイティブなオフィス環境の必要性</li></ul>
	新規事業	<ul style="list-style-type: none"><li>■東京五輪に向けて急増するインバウンド需要が文化体験・地域周遊型へシフト</li><li>■聖地巡礼に見られるような消費者のリアルなコンテンツ体験への欲求</li><li>■クールジャパン拠点事業に対する政府・地方自治体の後押し（所沢、羽田、竹芝）</li></ul>
意義	<p>①首都圏から1時間以内の好立地にあり、②上記3つの課題を一気に解決しうる十分な広さを備え、③市と緊密な協力関係が構築できており、④新たな地域ブランディングが可能な所沢の地において</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■出版業界に資するデジタル製造・物流プラットフォームの構築</li><li>■ワークスタイル改革による次世代の競争力創出</li><li>■リアルなコンテンツ体験を通じた新たな収益機会（インバウンド事業）の創造</li></ul>	

## ○KADOKAWA所沢プロジェクト



## ○羽田空港跡地第一ゾーン開発



## ○竹芝CIPプロジェクト



## 背景

- 既存設備の老朽化により新たな設備の構築が急務
- 書籍はコンテンツの源泉でありメディアミックス展開の原点、市場の縮小に関わらず重要。年間新刊点数5,000点は維持
- デジタル印刷技術の進化

## 目的

- 「短納期・明確納品の実現」  
書店からの注文に対し、納期を明確にした上で即座に発送  
→「見込注文・見込製造の解消」「ユーザが求める短納期」に対応
- 「適時・適量製造の実現」  
在庫がない商品でも注文対応できるよう1冊から即時製造(デジタルPOD)  
→「書籍販売・製造の小ロット化」「ユーザが求める短納期」  
「見込注文・見込製造の解消」に対応
- 「書籍製造・物流工場の情報連携の実現」  
製造・販売・流通のデータ連携  
→「製版一体の流通改革」実現のため

## 効果

- 最速の配送と最適な出荷がもたらす**返品**の減少
- 在庫切れ期間大幅圧縮による**売り逃し**の防止
- 適量製造による**作り過ぎ**の抑制、**原価削減**
- 適時製造による**在庫**の削減

売上の最大化と利益率の向上

## サクラタウンからはじまる新しいワークライフインテグレーション

- 利便性の高い「飯田橋キャンパス」に、ワンフロアでは国内最大規模の「所沢キャンパス（約3,000坪）」が加わり、世界でも類をみないワークプレイス環境
- 少子高齢化、共働き家庭での育児、要介護人口の増加、労働時間削減等により労働力の確保が難しくなる中、KADOKAWAらしい**先進的なワークスタイル変革に挑戦**

## 日本におけるワークスタイルリーダー企業となる

- 広大な約3,000坪の1フロアに最新のオフィス機能を備えたクリエイティブな環境で、**世界に向けたコンテンツ開発を推進** = 世界水準の**グローバルエンタテインメント企業**へ
- 多様な働き方とワークライフバランスの実現  
場所、働き方を限定せず「目的」によって最善のワークスタイル、ワークプレイスを選択できる環境を整えることで「ワークスタイル変革」を実現  
ワークライフバランス、生産性を共に向上させ、**次世代の競争力を創出**する
- イノベーションを起す共創を促し、**多様な働き方を実現させる**最先端のオフィスデザイン
- 優秀な人材のリクルーティング、次世代が**魅力を感じる企業風土の醸成**

## 事業継続（BCP）と企業価値向上（CSV）

- 拠点が複数となることで災害時の行動、選択肢が増え、より**強固な事業継続計画を実現**
- 地域社会と一体となったコミュニティ形成により、企業価値の向上だけでなく、地域社会の価値向上を目指す

## サクラタウンから始まる新しいワークライフインテグレーション

### 事業継続（BCP）と企業価値向上（CSV）



近郊外



都心



外部企業  
コワーキング

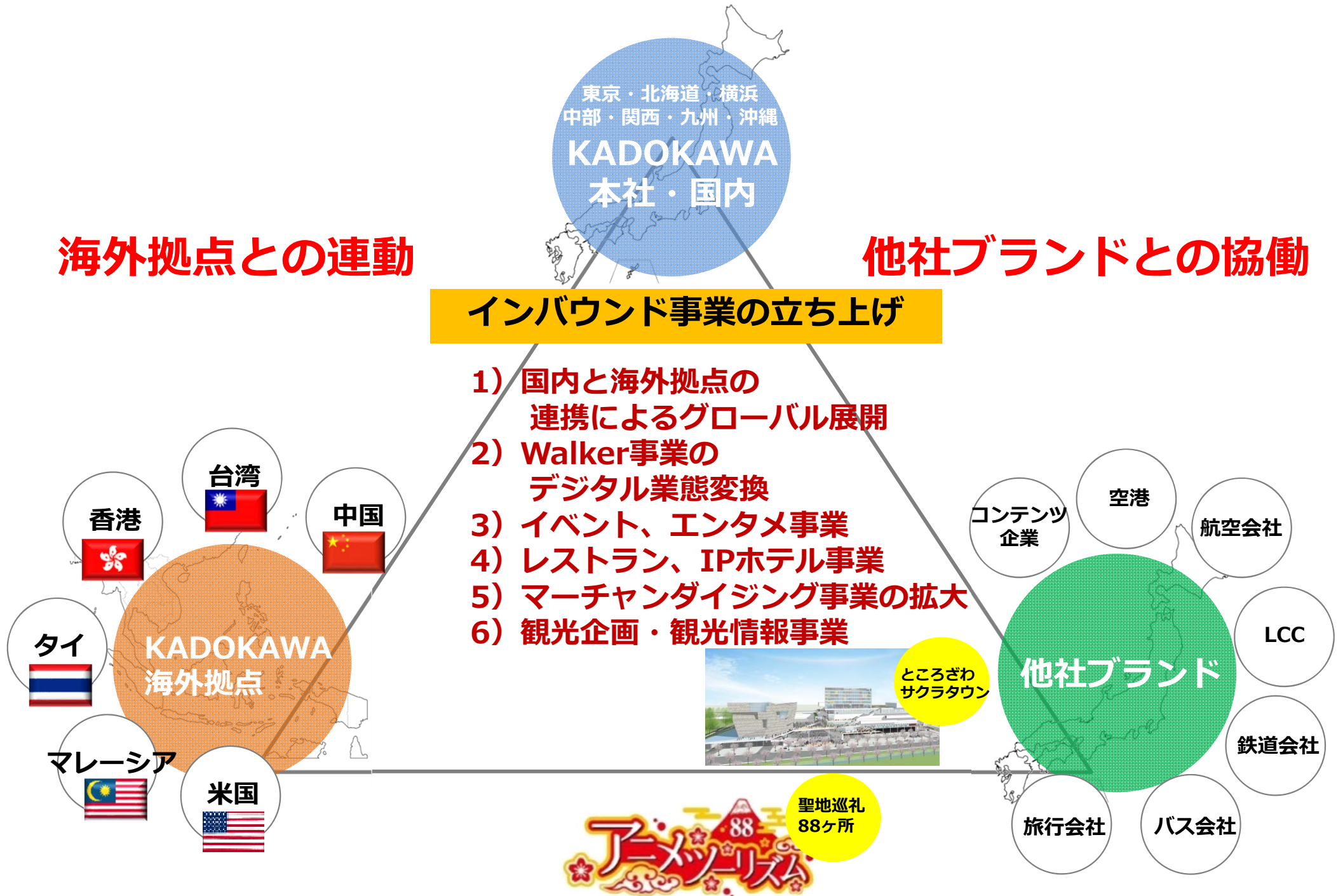
テレワーク

在宅勤務

サテライト  
オフィス

これからの日本におけるワークスタイルリーダー企業となる





# 9.新規事業の概要

## KADOKAWA

- 創業70年間に蓄積した知財
- 年間5,000点の書籍刊行力
- 社員2,700人のノウハウやアイデア
- メディアミックスというIP発信力

ヒト、モノ、情報の  
クロスマッチング拠点

## 所沢プロジェクト



## KADOKAWA インバウンド事業

- 1) 国内と海外拠点の連携によるグローバル展開
- 2) Walker事業のデジタル業態変換
- 3) イベント、エンタメ事業
- 4) レストラン、ホテル事業
- 5) マーチャンダイジング事業の拡大
- 6) 観光企画・観光情報事業

連携

## アニメ聖地88ヶ所



誘客

## KADOKAWA 海外拠点

国内と海外拠点の連携による  
グローバル展開



- 当資料に含まれる業績予想等の将来数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで判断したものです。
- 将来数値はさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの数値と異なる場合がありますので、この数値に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えてください。